



聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所

教会音楽科

学校案内

2026年度生徒募集要項

教会音楽のまことの目的が、神の光栄と賛美、信徒の聖化にあり、
その実践の前に神への礼拝—祈り—なくしてその真髄に達することは出来ない。

日々止むことなく捧げられる礼拝からすべての活動が流れ出る。

(ゲレオン・ゴールドマン神父)



聖グレゴリオの家教会音楽科とは

聖グレゴリオの家は1979年に、教会音楽の研究、保存、普及を目指して、ドイツのフランシスコ会司祭であった故グレオン・ゴールドマン神父と故 橋本周子によって設立されました。

教会音楽科は、教会で典礼や音楽に関わるために必要な様々な資質を磨くための学びの場として創設され、1985年にローマ・カトリック典礼憲章第6章に基づく教会音楽の教育を目的とする機関として、カトリック東京大司教区から公認されています。

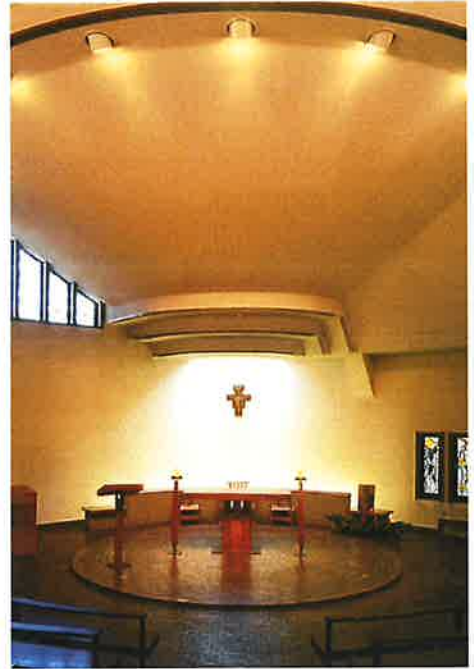
また2005年にはドイツのレーゲンスブルグ教会音楽・教育音楽大学の提携校となり、学習内容や試験について協力関係を結んでいます。

宗旨、教派を問わず、年齢も様々な方が全国から集まり、今までに200名を超える方がここでの学びを終え、各地で活動しています。

《教育方針》

教会音楽家、教会音楽奉仕者の育成を目的としています。

教派を問わず、教会音楽に携わる方に必要な能力、すなわち、奏楽・歌唱・合唱指導・即興編曲などの技術を身につけ、信仰や礼拝、及び教会音楽に対する造詣を深め、それを通して視野を広げることを理想としています。



ご挨拶



聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所所長 岩崎 真実子

聖グレゴリオの家の「教育」部門の中心をなす「教会音楽科」では、一日の学びの始めに聖堂で揃って「始業の祈り」を捧げます。奏楽、朗読、先唱をそれぞれ生徒が担い、共に歌い、祈り、み言葉を聞くとても大切な時間を過ごします。創立者のグレオン神父の言葉が表紙ページにあります。その中に「日々止むことなく捧げられる礼拝から、全ての活動が流れ出るので。」とあります。ただ知識や実技を習得するだけではなく、自分が一体「何のために学んでいるのか」を、この朝のひとときに思い起こします。

コロナ禍を経た現在、教会の音楽はいまだ回復の只中にあると思います。そしてまた戦いが止まぬこの不安定な世界で教会音楽がどのように変化、発展していくのかも目が離せないことです。「教会音楽科」で音楽の源流であるグレゴリオ聖歌をはじめ、教会の歴史とともにあった様々な音楽をじっくり学ぶことは、これからの教会音楽のあり方を考える一つの拠り所にもなるのです。朝の静寂に満ちた聖堂でご一緒しましょう。

天と地を治められる主よ、わたしたちの心、体、思い、行いを守り、
あなたの平和のうちに この一日を導いてください。
わたしたちの主、イエス・キリストによって アーメン

教会音楽科の魅力

その1：総合的な学び

オルガン個人レッスンや声楽の個人レッスンだけでなく、それを支える和声や音楽の構造も学びます。

グレゴリオ聖歌や教会旋法とソルミゼーション、合唱や指揮法、また教会音楽史、宗教の授業や典礼の実習もあり、様々な科目を通して教会音楽を総合的に学びます。



その2：音楽の原点に学ぶ

西洋音楽の源であるグレゴリオ聖歌は、神の言葉をどのようにこの空間に響かせるのがふさわしいかということを真摯に追求した言葉の芸術です。五線の楽譜には書き表すことのできないニュアンスや息遣いを、ネウマを学ぶことによって知ることができます。

言葉が持っているリズムやフレーズを学ぶことは、歌や聖歌というジャンルに留まらず、すべての音楽に通じるとても大切で有用なことだと考えます。



その3：豊富な楽器や資料

聖グレゴリオの家には4台のパイプオルガンがあり、レッスンだけでなく日々の練習でも使うことができます。

特に聖堂にあるアーレントオルガンは、初期バロックの作品を弾くのに最適な素晴らしい楽器で、海外からの演奏者たちも時の経つのを忘れて無心にこの楽器を弾いています。オルガンが音楽を教えてくれるのです。他にもポジティブ・オルガン、チェンバロ、グランド・ピアノ、リードオルガン、ハルモニウムオルガンなど、多くの楽器があり、授業や演奏会で使われます。

資料室では、宗教声楽曲・合唱曲・各宗派の聖歌本、オルガン曲の楽譜を多数所蔵しています。研究者用の全集・叢書楽譜も良質なエディションを揃え、専門の司書がレファレンス・サービスもしています。



その4：経験豊かな講師陣

演奏家として活躍中の経験豊かな講師が在籍しており、生徒一人ひとりに寄り添いながら、分かりやすく楽しい授業・レッスンをを行っています。また、各分野で長年研究を重ねている第一線の研究者による特別な専門講義も充実しています。



その5：学びに最適な環境

祈りの場でもある聖堂は程よい残響のある空間で、オルガンのレッスンや合唱、発表演奏会などに使われています。周辺には黒目川が流れ雑木林や畑、豊かな自然が広がり、忙しい日常を忘れて音楽の勉強に浸ることができます。



その6：レーゲンスブルグ教会音楽・ 教育音楽大学との提携

2005年にドイツ国立レーゲンスブルグ教会音楽・教育音楽大学の提携校となりました。同大学のカリキュラムを踏まえつつ、日本の現状に合わせてカリキュラムを組んでいます。また同大学の教会音楽奉仕者の認定試験を受けることができます。



主な行事と1日のスケジュール

主な年間行事

9月～12月	新年度開始 教会音楽講習会 クリスマスマーケット 待降節 クリスマス 冬休み
1月～3月	オルガンに親しむ一日(2/11) 灰の水曜日 受難節 春休み
4月～6月	イースター オープンスクール 在校生演奏会 教会奉仕者認定試験 修了演奏会&修了式
7月～	入学面接 オルガン見学会 夏休み



一日のスケジュール

9:40～	始業の祈り 一日の学びを始める前に全員で祈りの時を持ちます。オルガン奏楽、聖書朗読、先唱などを生徒が担当します。
10:00～11:00	グレゴリオ聖歌 (クラス授業) ソルミゼーション (クラス授業)
11:10～12:30	合唱・合唱指揮 (クラス授業)
12:30～	昼休み
13:00～	オルガン、声楽、和声 (個人レッスン) グレゴリオ聖歌 (専攻科) 実践的鍵盤和声 (専攻科)



主な授業科目

グレゴリオ聖歌 担当講師：鈴木菜穂子、辻康介(ソルミゼーション)、西脇純、上出朝子(専攻科)

カトリックの典礼暦年に沿いながら聖歌を取り上げ、現代の楽譜では表すことのできない微妙なリズム・テンポ・ニュアンスを表すネウマ譜を学び、歌詞である聖書の言葉を理解していきます。またソルミゼーションの授業では、普段触れることの少ない旋法や中世の階名唱などの基礎を学びます。

オルガン・オルガン学 担当講師：岩崎真実子、菅哲也、西尾純子、原田真侑

礼拝においてオルガン奏楽者は単に楽曲を弾きこなすだけではなく、その時になかった曲を選択し、その時になかった演奏が求められます。オルガンのコラール作品、自由作品をバランス良く取り入れながら個々の学生のレベルに応じてオルガン奏法の基礎、礼拝での心構え、奏楽曲の選び方、およびその演奏法を指導します。また、オルガン音楽そのものに興味がある方にも、その壮大な世界の一端を実際に作品を演奏することを通して学んでいただけます。

オルガン学の授業では、オルガンとは、オルガンの学び方（文献の活用）、オルガン奏法、オルガン構造論などを多角的に学びます。

声楽 担当講師：及川豊、小川素子、木島千夏

毎週30分の個人レッスンを行います。自分の呼吸と向き合い、心と身体を解きほぐしながら声という楽器を育てていきます。歌詞が伝わる自然な発声、また他者と共に響きを合わせて歌うことのできる歌い方を学んでいきます。レパートリーは日本語の賛美歌や聖歌、バロック時代から古典派、ロマン派、現代の作品まで幅広く、生徒一人ひとりに合わせて課題を選んで学びます。さらに、音楽の構造、伴奏、聖歌隊や合唱団を指導する時に役立つ視点も学びます。

合唱・合唱指揮 担当講師：及川豊、牧野成史

グレゴリオ聖歌の影響の残る、旋法性の優位なルネサンス時代の曲と、モーツァルトやハイドンのミサ曲を主に取り上げます。ラテン語やドイツ語だけでなく日本語の響きをどう活かして歌うかも考えていきます。また、個人ではなく「われわれの」生きた声をどのように扱うか、身体的・心理的な視点も大切にしながら、アンサンブルの実践のなかで皆さんの学びをサポートしていきます。

聖歌隊の響きを形作るのは、限られた時間で行うリハーサルです。指揮法の授業では、楽曲の祈りを具体的に音へ変える「伝え方」を重視。解釈をどう言葉と指揮に反映し、歌い手の自発性を引き出すか。現場で即戦力となる効果的なトレーニング術を、実践を通じて磨きます。

和声・実践的鍵盤和声 担当講師：柿沼唯、ジャン・フィリップ・メルカールト

和声の授業では、ヨーロッパの音楽においてもっとも重要な2つの柱である和声と対位法を基礎から実践的に学びます。1.楽譜を書くこと、2.書かれたものを深く理解して弾くこと、3.イメージ通りの音を鍵盤上で組み立てること、を通して、音楽をより深く聞く耳を養い、さらには音を自在に操ることが出来るようになることを目指します。

実践的鍵盤和声の授業では、聖歌の和声付けにはじまり、聖歌のメロディを生かした前奏や間奏や後奏の作り方、簡単な即興演奏の方法などを、オルガンの鍵盤を使って学びます。楽譜をそのまま弾くのではなく、鍵盤上で和声を組み立てるためにはどのようなスキルが必要か、実際の聖歌で実践しながら進めてゆきます。

その他の科目

宗教、典礼実習、教会音楽史、通奏低音

一斉授業について

年に3週「一斉授業」があります。水曜、木曜両日とも全員が出席します。灰の水曜日のミサや典礼実習など、毎週の授業とは異なる内容の授業を行います

教会音楽科生徒募集要項

【本科】

3年間の教育課程の中で、教会での音楽奉仕を目的とした基本的技術を学びます。宗教音楽に関心、興味を持っている方も、音楽を通じて、その本質に関わる事柄を実践的に学ぶことができます。

【専攻科】

本科の過程を終了した方、またはそれと同等の経験・技量を有する方が、さらに専門的な勉強を2年～3年積み重ねます。外部から直接専攻科に入学する場合は、1年間本科で勉強してから専攻科へ移ります。

専攻科には3つのコースがあります。

- ① **自由選択コース**(8単位、11単位) 外部から直接このコースに入ることはできません。
- ② **Gコース** 聖グレゴリオの家認定教会音楽奉仕者(カトリック東京大司教による認可)の資格試験を1指します。
- ③ **Rコース** レーゲンスブルグ教会音楽大学(HfKM)認定教会音楽奉仕者の資格試験を1指します。
(今年度は募集しません。)

【本科入学要項】

●授業日：2026年9月～2027年7月、水曜または木曜(週1回)、年に数回の集中講義と講習会

●学 費：入学金 6万円(消費税別) 66,000円(税込)
授業料 年額37万円(消費税別) 407,000円(税込)
設備費 年額6万円(消費税別) 66,000円(税込)

●定 員：10名

●入学資格：教派を問わず、教会で音楽・典礼に携わっている方、また教会音楽を学びたい方

●面 接：2026年7月5日(日) 14:30より (二次面接：8月30日(日)17:00より)
下記の演奏をして頂きます。

【ピアノ】 J.S.バッハ「二声のインヴェンション」より任意の1曲

【声楽】 イタリア歌曲集1～3巻、ドイツ歌曲、聖歌集・讃美歌集より任意の1曲

※声楽曲の伴奏譜のコピー1部を申込書と一緒に提出してください。

【専攻科入学要項】

●授業日：2026年9月～2027年7月、水曜または木曜(週1回)、年に数回の集中講義と講習会

●学 費：入学金 6万円(消費税別) 66,000円(税込)
授業料【Gコース】年額47万円(517,000円 消費税込)
設備費 年額6万円(消費税別) 66,000円(税込)

●定 員：若干名

●入学資格：教派を問わず、教会で音楽・典礼に携わっている方、また教会音楽を学びたい方で本学本科修了者と同等の力がある方。

●面 接：2026年7月5日(日) 14:30より (二次面接：8月30日(日)17:00より)

実技試験課題 オルガン J.S.バッハ、またはD.ブクステフーデの作品から任意の1曲
声楽 日本語の聖歌・讃美歌を1曲と外国語の宗教曲を1曲
和声 コラール旋律の初見和声付け

※声楽曲の伴奏譜のコピー1部を申込書と一緒に提出してください。

【申込みについて】

申込書に必要事項を記入し下記へ提出してください。郵送、FAX、メール添付可。**締め切り：7/1(火)必着**

〒203-0004 東京都東久留米市氷川台2--7-12

TEL：042-474-8915 FAX：042-474-8832 e-mail：info@st-gregorio.co.jp

聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所 教会音楽科入学係

聖グレゴリオの家沿革

- 1979年 聖グレゴリオの家創立 ゲレオン・ゴールドマン神父初代理事長兼研究所所長就任
シンポジウム「これからの典礼と音楽」
- 1980年 教会音楽科、古楽科開設
- 1981年 教会音楽講習会始まる
- 1986年 アーレントオルガン祝別式
- 1994年 創立者ゲレオン神父ドイツへ帰国 橋本周子研究所所長に就任
- 1997年 ミッション・ベネディクト会聖オットィリエン大修道院のオペラータ第1回誓願式
- 2003年 ゲレオン神父帰天
- 2005年 ドイツ国立レーゲンスブルグ教会音楽・教育音楽大学と提携
- 2024年 橋本周子理事長・所長帰天 西脇純理事長、岩崎真実子所長就任



創立者 ゲレオン・ゴールドマン神父
Gereon Goldmann OFM
1916-2003



前理事長・宗教音楽研究所所長
橋本 周子（教会音楽家）
1937-2024



聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所

〒203-0004

東京都東久留米市氷川台 2-7-12

電話：042-474-8915（月～土 9:00-17:00）

FAX：042-474-8832

E-mail：info@st-gregorio.or.jp

<https://st-gregorio.or.jp>